

石川県能登地方の地震活動の評価（案）

- 石川県能登地方の地殻内では、2018 年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020 年 12 月から地震活動が活発になり、2021 年 7 月頃からさらに活発になっている。一連の地震活動において、2020 年 12 月 1 日から 2022 年 7 月 8 日 09 時までに震度 1 以上を観測する地震が 183 回、このうち震度 3 以上を観測する地震が 30 回発生した。最大の地震は、2022 年 6 月 19 日に発生した M5.4 の地震である。この地震により石川県で最大震度 6 弱を観測した。この他、2021 年 9 月 16 日に M5.1 の地震が発生し最大震度 5 弱、2022 年 6 月 20 日に M5.0 の地震が発生し最大震度 5 強を観測した。
一連の地震活動は、現在のところ減衰する傾向は見え、依然として活発な状態が継続している。
- 一連の地震活動は、東西約 15 km、南北約 15 km の領域で発生している。特に北側から東側にかけての領域で地震活動が活発であり、2021 年 9 月 16 日の M5.1 の地震、2022 年 6 月 19 日の M5.4 の地震、及び 6 月 20 日の M5.0 の地震も、これらの領域で発生した。東側の領域では、2022 年 3 月頃からは M3.0 程度以上の地震回数が増加している。
また、一連の地震活動では、概ね南東傾斜の震源分布が複数見られ、震源は時間の経過とともに深部から浅部へ広がっている。これまでの地震活動における発震機構解は、概ね北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、南東傾斜の震源分布とも概ね調和的である。
- GNS S 観測の結果によると、2020 年 12 月頃から、石川県珠洲（すず）市の珠洲観測点で南南東に累積で 1 cm を超える移動及び 4 cm 程度の隆起、能登町の能都（のと）観測点で南南西に累積で 1 cm を超える移動が見られるなど、地殻変動が継続している。
なお、2022 年 6 月 19 日の M5.4 の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。
- 2022 年 6 月 19 日に発生した M5.4 の地震に伴って、石川県珠洲市の K-net 正院（しょういん）観測点で 606gal（三成分合成）など、大きな加速度を観測した。
- 今回の地震活動域の周辺では、今回のような同規模の地震が長期間継続して発生する活発な地震活動は、これまでに知られていない。一方で、日本国内では、同様の地震活動が見られたことが時々ある。1965 年からの松代群発地震をはじめ、近年では、2011 年 3 月からの福島県会津から山形県置賜地方にかけて、2016 年 12 月

頃からの鹿児島湾の地震活動などがある。それらの中には、1年以上継続した地震活動もある。

- 能登半島の周辺では、これまでも被害を伴う規模の大きな地震が発生している。2007年3月25日には「平成19年（2007年）能登半島地震」（M6.9）が発生し、最大震度6強を観測した。また、1993年には今回の地震活動域の北方でM6.6の地震が発生した。この他、今回の地震活動域付近で被害を伴った地震として、1729年にM6.6～7.0の地震、1896年にM5.7の地震などが知られている。
- 能登半島の北岸沖の海底には、活断層が存在することが知られている。これらの活断層は、概ね北東－南西の走向で、南東傾斜の逆断層であると推定されている。
- これまでの地震活動及び地殻変動の状況を踏まえると、一連の地震活動は当分続くと考えられるので強い揺れに注意が必要である。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。